

糸魚川市 山の魅力アップ 推進計画



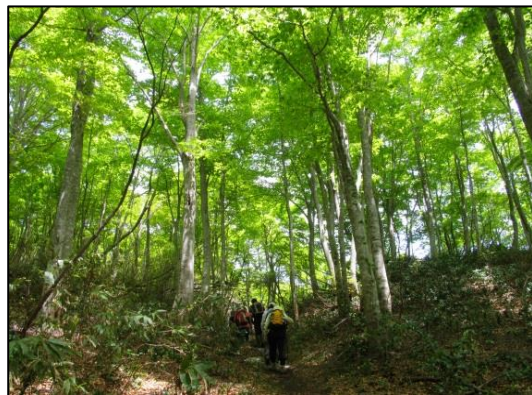
妙高戸隠連山国立公園（雨飾山）



中部山岳国立公園（蓮華の山並み）



拇海新道



戸倉山



平成 29 年 3 月



新潟県糸魚川市



糸魚川市山の魅力アップ推進計画

目次

1	目的	1
2	計画期間	2
3	計画策定の経緯	2
	(1) 検討委員会	
	(2) 検討委員会実施経過	
4	登山客の現状	3
	(1) 全国の登山者数の推移	
	(2) 糸魚川市の登山者数の推移	
	(3) 糸魚川市の登山者数の推移（登山道別）	
	(4) 市内観光客に占める登山者数割合	
	(5) 現状のまとめ	
5	推進計画の検討	7
	(1) 魅力・課題の意見出し（結果）	
	(2) ワークショップまとめ	
6	山の魅力アップ推進事業計画	9
7	計画の推進に向けて	12
8	検討委員会	13
9	写真紹介	14

1 目的

糸魚川市は面積の9割以上が山林地域となっており、四季を通して山岳、溪谷、森林など変化に富んだ個性豊かな自然を楽しむことができます。また、市内には平成27年3月に上信越高原国立公園から分離独立して誕生した妙高戸隠連山国立公園と中部山岳国立公園の2つを有しています。

当市は、平成21年に日本初の世界ジオパークに認定され、この2つの国立公園に代表される貴重な地域の自然・文化をまもり、かつ多くの人に知ってもらい訪れてもらうことを目的の1つとして活動をおこなっています。しかしこの国立公園については、保護・保全が重視され、活用の取組が十分ではありませんでした。この国立公園内には糸魚川を代表する山々も含まれており活用策を検討することが急務であり課題となっています。

昨年、「山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する」ことを趣旨として国民の祝日「山の日」が制定されたことで、山への注目が集まり、登山の人気は益々高まりつつあります。

現在、市内には多数の登山道が存在していますが、その多くは、新潟県が制作する「山のグレーディング表」（体力度と技術的難易度で評価）においても難易度が高いルートとして紹介されており、全国の山々で様々な登山を経験した熟練者にも十分に満足していただける登山道となっています。

市内には熟練者向け登山道以外にも、登山道中の危険個所が少なく、初心者でも軽装で気軽に登山を楽しめる登山道も数多く、更には、かつて戦国時代にその山頂に山城を有し、当時の歴史・ロマンを体感できる登山道も有しています。

このように、市内には様々なレベルや目的を持った登山者に糸魚川を満喫していただける魅力的な登山道が数多く存在しています。

これらの多様な登山道へ多くの方からお越しいただくためには、初心者から上級者まで様々な登山者をターゲットに、この魅力的な登山道を市内外に向けてどのように情報発信していくかということも重要な課題となっています。

平成27年3月には、北陸新幹線も開業し、首都圏及び関西圏からのアクセスが飛躍的に改善しており、交流人口拡大のチャンスは大きく広がっています。

この計画は、市内の山々に関する現状の課題を把握し解決することで、全国から多くの登山者に来訪していただき、糸魚川市が持つ魅力ある自然を満喫していただくことを目的として策定するものです。

2 計画期間

平成 29 年 4 月 1 日～平成 39 年 3 月 31 日

3 計画策定の経緯

(1) 検討委員会

山に関わる観光関係事業者、交通事業関係者などから構成する検討委員会を組織してワークショップ形式で市内の山々の現状や課題を出し合い、その意見を整理しながら課題に対する解決策の検討をおこないました。

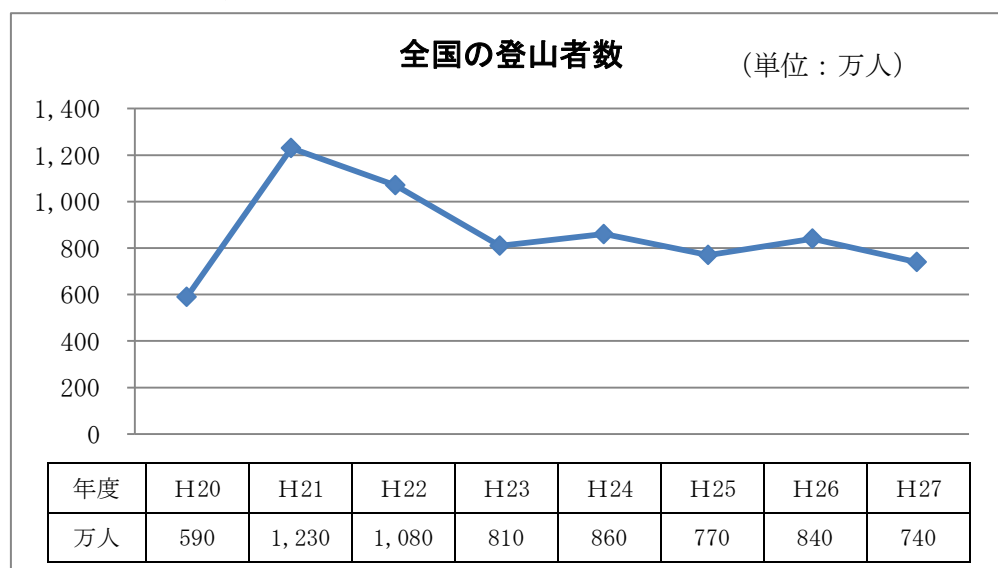
(2) 検討委員会実施経過

- ① 第 1 回検討委員会 平成 28 年 10 月 20 日
 - ・委員会の役割、規約確認
 - ・委員長の選任
 - ・スケジュール確認
- ② 第 2 回検討委員会 平成 28 年 11 月 10 日
 - ・現状把握、山々の課題出し
- ③ 第 3 回検討委員会 平成 28 年 12 月 8 日
 - ・山々の課題についての解決策検討
- ④ 第 4 回検討委員会 平成 29 年 1 月 19 日
 - ・山の魅力アップ推進計画（素案）確認
- ⑤ 第 5 回検討委員会 平成 29 年 3 月 13 日
 - ・山の魅力アップ推進計画（案）最終確認



4 登山客の現状

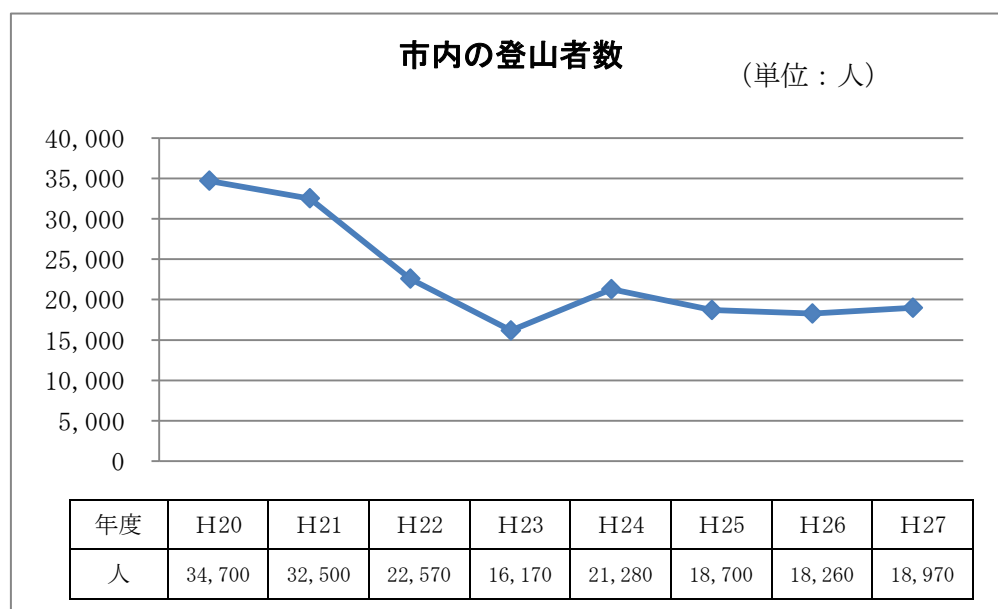
(1) 全国の登山者数の推移



【出典「レジャー白書」】

平成 21 年には流行語大賞の候補にも選ばれた「山ガール」ブームの影響もあり平成 20 年に 600 万人程度であった登山人口は 1,230 万人と倍増しました。しかし、その後は、800 万人前後でほぼ横ばいで推移しています。

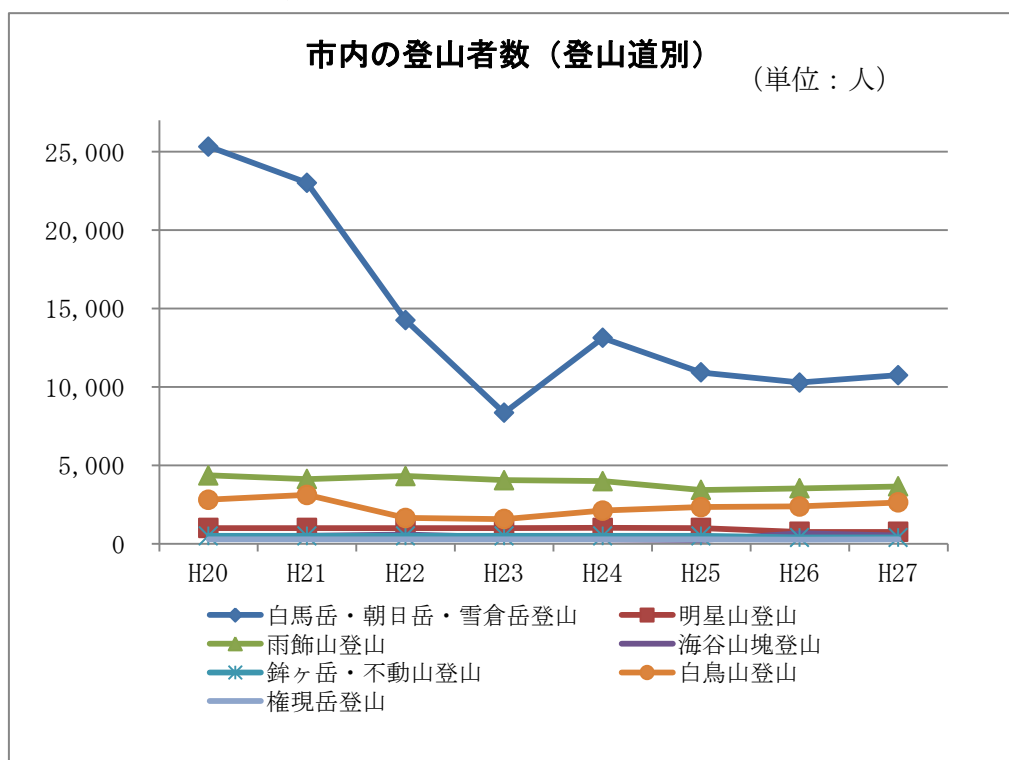
(2) 糸魚川市の登山者数の推移



【出典「糸魚川市観光動態調査」】

糸魚川市は平成 21 年の全国的な登山ブームの影響は受けない結果となっています。平成 23 年には平成 20 年の約半数の登山者数となりましたが、減少は下げ止まり、その後は 18,000 人程度で推移しています。

(3) 糸魚川市の登山者数の推移（登山道別）



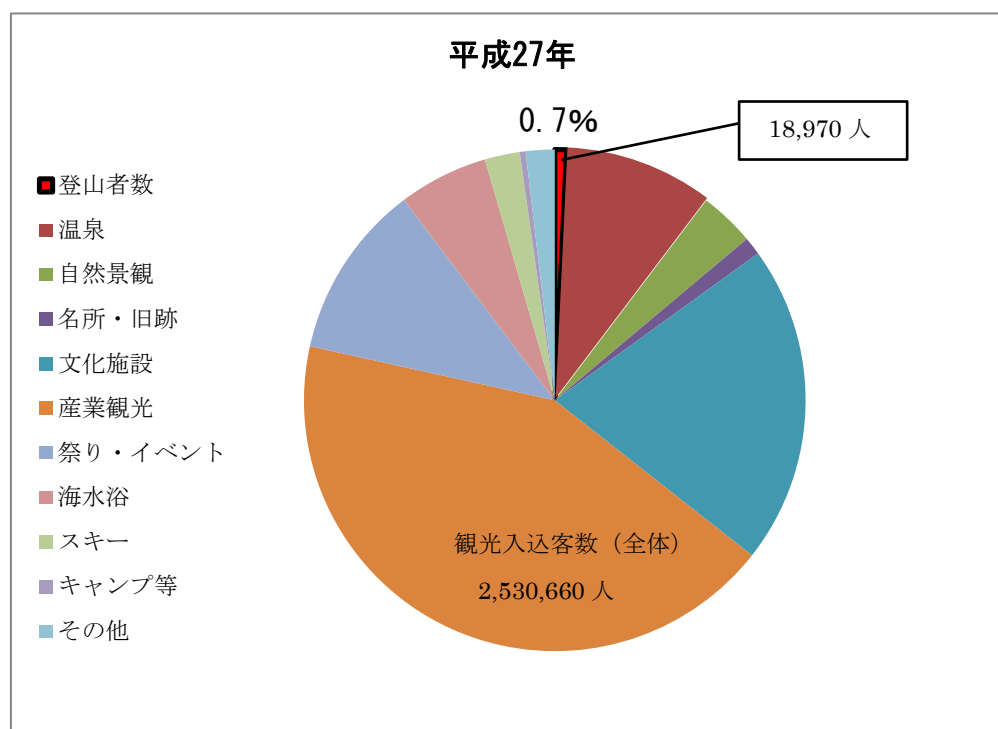
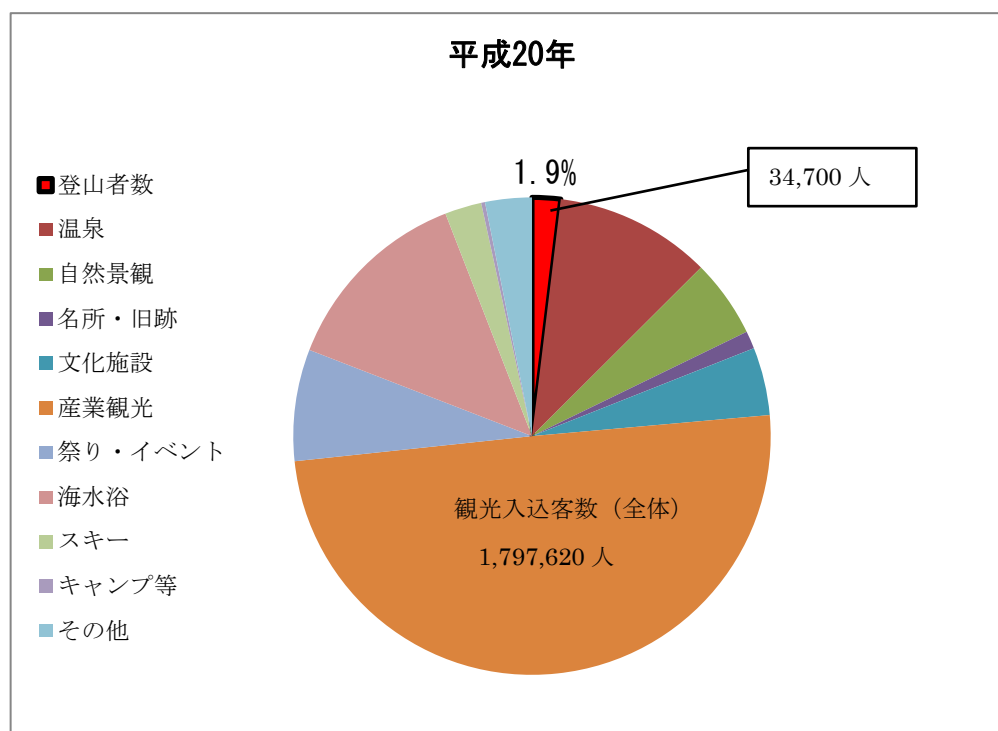
(単位：人)

市内の登山者数	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
白馬岳・朝日岳・雪倉岳登山	25,320	23,010	14,260	8,350	13,120	10,920	10,280	10,750
雨飾山登山	4,360	4,120	4,310	4,050	3,990	3,430	3,530	3,650
白鳥山登山	2,800	3,110	1,640	1,570	2,110	2,340	2,380	2,630
明星山登山	1,000	1,000	1,000	1,000	1,010	1,000	750	750
鉾ヶ岳・不動山登山	500	500	500	500	500	500	400	400
海谷山塊登山	440	500	580	420	270	230	660	520
権現岳登山	280	280	280	280	280	280	260	270
計	34,700	32,520	22,570	16,170	21,280	18,700	18,260	18,970

【出展「糸魚川市観光動態調査」】

市内の登山者数を登山道別でみると、「白馬岳・朝日岳・雪倉岳登山」が最多であり、2番目の雨飾山登山道の3倍近くの登山者数となります。3番目に多い白鳥山は、「拇海新道」を構成する山のひとつであり、登山熟練者から根強い人気があることがうかがえます。

(4) 市内観光客に占める登山者数割合



【出典「糸魚川市観光動態調査」】

平成 27 年の市内観光客数に占める登山者数割合は 0.7 パーセントでした。
最も高い平成 20 年でも 1.9 パーセントと全体に占める登山者数の割合は低い数値になっています。

(5) 現状のまとめ

登山者数は、平成 21 年に「山ガール」ブームの影響で全国的には前年から倍増していますが、当市においてはその影響は受けず、平成 20 年と比較すると、登山者数が減少する集計結果となっています。その後の市内登山者数は、全国と同様に平成 22・23 年に減少した後、平成 24 年には一時 2 万 1 千人に回復、平成 25 年以降は、1 万 8 千人前後で推移しています。

また、直近の平成 27 年における市内観光入込客数に占める登山者数の割合も 0.7 パーセントとなっており、平成 20 年の 1.9 パーセントの約 3 分の 1 となっています。

日本百名山にも選定されている雨飾山の登山者数が白馬岳と比較しても低い事から魅力の向上を図ることにより登山者数を増加させることが可能であると考えられます。その他の山々の登山者数も観光入込客数全体の割合から見て十分伸ばせる余地があります。

全国的な「山ガール」ブーム時に市内の登山者数が逆に減少していることから市内を訪れる若い世代の登山客が少ないことがうかがえます。

市内登山客を増加させるためには、リピーターを増加させるための取り組み及び 40 代以下の若壮年世代をターゲットにした情報発信が重要であると考えられます。

このことから、山の魅力アップ推進計画を策定し、山々の魅力を向上させることで登山者数を増加させることが必要です。

【目標数値】

5 年後（平成 33 年度） 3 万人

10 年後（平成 38 年度） 4 万人

